

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470102478		
法人名	社会福祉法人 礎山会		
事業所名	居宅介護支援総合福祉施設「憩いの館」グループホーム		
所在地	大分県大分市大字津守字長田2547番地の6		
自己評価作成日	令和3年10月31日	評価結果市町村受理日	令和4年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれ、広いリビングで生活し、管理栄養士による食事を提供し、年6回の外出支援や、年1回の家族会、地域行事の参加をしている。リハビリで口腔体操、ストレッチ体操をしている。みどりのカーテンや太陽光設備にて環境対策している。居室が広く、清潔にしている。ホームの周りで野菜を作り、入居者と一緒に水やりや、草取りをして、育てた野菜を収穫し、料理して皆さんで美味しく食べている。またホームで猫を1匹買って、アニマルセラピー効果が期待できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小高い山の中腹に建つグループホームは自然環境が豊かで、近くの川からの水害などの心配もない。隣接のデイサービスセンターに移動販売の車が来て、入居者も職員と一緒に自分の好みの物を買うなどして楽しみにしている。職員間の連携がよくとれており、管理者にも意見を言いやすい。気がついたことをお互いに話し合っって業務改善に向けている。室内で猫を飼っており、入居者と職員が可愛がってセラピー効果を上げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念があり、朝礼時や、職員会議時等で確認している。	毎朝、ミーティングの時に唱和し、実践が出来ているかを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナで外出や行事、受け入れ等はできていないが、外出支援やボランティア、実習生等の受け入れをしており、外部との交流に繋げている。	前回の調査の目標達成計画に上げたが、コロナ禍のために外出や外部との交流はほとんどできなかった。10月頃より、散歩をしたり、ドライブするなど少しずつ回復している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新聞発行しており、地域の避難場所等に指定があり、地域住民の認識がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の推進会議を開催しており、状況報告や意見交換を行い、朝礼や職員会議で報告している。	推進会議はコロナ禍で書面決議にしていたが、今年度初めて11月に参集して行った。新規入居者の困難対応について話し合いを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険やケアプラン更新時、事故報告時等現状報告や、相談をしている。	事業所のほうから出向いて、わからないことなどを聞いている。また、現状報告や事故報告なども行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会で報告や検討会をしている。必要時以外は玄関を開放している。	推進会議の中の虐待防止委員会で、該当する事例はないかチェックをしている。車椅子の人は長時間そのままにせず、リビングでは移り替えをすることを職員間で確認している。拘束の研修を行い、防止に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や職員会議の中で、確認や検討会をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議時の研修会で、資料等で学んでいるが、利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけて説明して、理解や納得を得ている。又変更がある時は、資料等で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、苦情等に利用している。家族来館時には、意見等を聞くように心掛けている。	家族の意見を聞くために、月に一回担当職員が手書きで生活の様子などを報告している。電話で報告を行い、その際に、してほしいことなどを言ってもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼や職員会議時に意見等を反映させ、必要に応じて代表者と意見交換している。	意見交換の場を設けるとともに、個別での相談や希望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議や朝礼等で、有給休暇取得や、勤務状況等の意見を反映させ、改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加を促し、資格取得に向けた環境作りをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や入居者確保時に、他者との関わる機会を積極的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族に生活歴や、趣味などを事前に聞いておき、自然な会話の中から、要望等を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話等で困っていること等を聞き、安心していただき、職員でできる対応を話し合う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを聞き、必要なサービスに繋げるよう職員で話し合う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に作品を作ったり、土を触ったりして、暮らしを共にする関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの電話や、オンライン(ズーム)等を利用し、絆やふれあいを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話のやり取りをしたり、家族対応で受診をしたり美容室に行ったりしている。	職員は電話をかけることを勧めたり、年賀状の手伝いをするなどの支援を行っている。以前は家族に馴染みの美容室などに連れて行ってもらっていたが、最近は感染予防のために中断している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を見ながら、席替えをしたり、大勢で遊んだり、一人ひとりでやりたいことをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会はできていないが、電話等で話をして情報を提供したり、聞いたりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	状態や表情観察で思いや意向をくみ取り、できるだけ本人らしさが出るよう支援している。	会話ができる人には直接問いかけるなどして思いや意向を聞いている。話せない人には行動や表情で読み取り、ケース記録に記入して職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族を通して、好きな物や生活歴等をお聞きしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室で休んだり、TVを見たり、楽しみを引き出すようにしている。記録を用いて状況確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2ヶ月毎の会議の際利用者様の状態を把握し、日々の生活状況の中からも支援方法を考え、見直しも行っている。	2か月ごとにモニタリングを行い、変化があれば支援目標を検討している。第2表についての支援内容がどの職員にも把握できるよう、ファイリングの工夫が望まれる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個々のケース記録に記入し、朝礼や職員会議の場で話し合い、共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	2ヶ月毎の会議の際支援方法を考え、見直しも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナの為、広報誌を発行して、情報を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を優先して、病院受診をお願いしている。施設の協力医や、等の情報提供もしている。	希望があれば、入居前のかかりつけ医に受診している。ふだんは家族に受診の同行を依頼しているが、緊急時は職員が対応し、家族への報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	デイの看護師に協力をお願いしている。病院受診時に、医師への情報提供をして、適切な対応をしていただき、必要に応じて訪問看護の利用もしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、細かな情報を提供し、治療方針に協力し、早期退院に努めている。コロナの為面会はできていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約時に重度化に関する確認書等で説明し、理解を得るようにしている。定期的に家族と相談の機会を設けている。	看取りは行わないとの方針で要介護3以上になった時点で話し合いを行い、特養への移転を勧めている。書類などの準備があり、家族にもよく説明をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、定期的に見直しや、シミュレーションをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練をし、入居者等の防災に対する意識を高め、避難経路や消火器の取り扱いの確認をしている。災害避難場所指定されている。	年に2回、避難訓練を行い、消防署の立ち合いも要請している。避難経路や消火器の扱い方などの訓練もしている。	入居者を含めた避難訓練を行うようにし、自治会や近所の人に協力をお願いすることが望ましい。また、緊急連絡先のリストなども再整備することが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その時の気分の変化や体調により、声掛けの仕方を変えたり、時間を変えたりして対応している。	人生の先輩として敬う気持ちを忘れずに、声掛けには気をつけている。トイレや入浴などで拒否がある時には、勧め方を変えたり、時間を置くなどしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	内服等については、本人の希望(どこが痛いかや便など)を聞いた上で、Drに報告し処置して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	睡眠状態や、体調によっては、無理に活動させずゆっくりと過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	体温調節ができない入居者様に対しては、服を選んであげたり、外出時等も身だしなみに気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調に合わせて食事量や、嚥下の状態を見て、トロミを付けたり工夫している。	食事は法人の施設から運ばれてくるが、盛り付けや洗い物ができる人には手伝ってもらっている。普通食の人の他、刻みやトロミ、粥状などその人に合った状態で提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	排泄の回数や、便の量等で水分調節できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを促し、確認するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録で把握し、誘導や、声掛けをしている。	日中は全員がトイレを使って排泄できている。排泄パターン表で誘導し、リハパンを減らせるよう、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳を提供し、お茶等も提供して、水分補給を心掛けている。ラジオ体操や、ストレッチ体操等も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴以外に、希望があればシャワー浴をしている。	隔日毎に入浴し、全員が入浴している。長く入りたい人にはあとで入ってもらうなど入浴が楽しいものになるよう順番や温度などの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況を見て臥床の援助を行い、居室で静養したり、TV等を見ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体調や行動の変化を記録し、診療時医師に報告等を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いや、簡単な作業など役割を持つ支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為、外出を控えているが、施設に移動販売が来るので、買い物支援している。	コロナのため1年以上外出を控えざるを得なかったが、10月頃から、敷地内での散歩や窓を開けなくてドライブするなど、外に出る機会を増やしている。今やれることを増やしてやっていくと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な方には、お金の所持をして頂き、買い物支援時等に使用していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末時は年賀状を書き、必要に応じて携帯電話を所持していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるようにあまり工夫できていない為今後取り組んでいきたい。	外に行けない分、共用空間に季節を感じさせる工夫をしたいと考えている。リビングの広さや机の配置、採光や温度などは気持ちのいいものになるよう、こまめに調節されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者同士で、居室の中で話したり、静養したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の配慮で、できるだけ使い慣れたものを使用していただいている。TVや、机等の配慮もしている。	自室で落ち着いて睡眠できるよう、壁のざらつきをふさぐなど、各部屋によってそれぞれの工夫がされている。テレビや家具など、使い慣れたものが置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわからない入居者には、扉に名前を貼らしていただいている。イスにも名前を貼り、茶わん等にも一人一人違った物を使用していただいている。		